

【概要一覧表の見方】 ※【特色選抜のみで選抜を実施する場合】

学校名	課程	学科	① 募集人員 (選抜の割合)		② 傾斜配点		③ 学校 選択 問題 (数・英)	④ 調査書 (各学年の比率)				⑤ 面接		⑥ 特色検査	⑦ 選抜資料の配点					⑧ 第2志望	⑨ その他								
			第1次	第2次	第1次	第2次		第1次選抜		第2次選抜		方法	独自項目		第1次選抜			第2次選抜											
								年	2年	3年	合計				1年	2年	3年	合計	学校			調査書	面接	特色 検査	合計	学校	調査書	面接	特色 検査
●●	全	◎◎	70%	30%	数学 (200点) 英語 (200点)		○	2	2	3	180	1	1	2	90	集団		700	200	30		930	500	500	30		1030	なし	なし
□□	全	■ ■	70%	30%				1	1	1	225	1	1	2	225	個人	○ 実技(芸術系)	500	300	60	300	1160	500	300	60	600	1460	美術表現科から普通科への第2志望を認める	なし

【① 募集人員(選抜の割合)】

最初に募集人員の60~80%を第1次選抜で入学許可候補者をとします。次に残りの100%を第2次選抜で入学許可候補者をとします。

【② 傾斜配点】

学力検査の得点は各教科100点、合計500点満点を基本点とします。ただし、各高校は、3教科を上限として、傾斜配点を設定する場合があります。傾斜配点を実施する各教科の学力検査の配点は1教科ごと150点又は200点とし設定します。傾斜配点を実施しない場合は空欄としています。 ※●●の例では、第1次選抜で数学及び英語を200点満点に換算して選抜の資料とします。

【③ 学校選択問題】

学力検査(数学と英語)の問題の一部に応用的な内容を含みます。該当する場合は「○」、該当しない場合は空欄としています。

【④ 調査書(各学年間の比率)】

各学年間の比率は、学科、コース等の特色に応じて、各高校が定め、各学年の比率をそれぞれ乗じて加えた数(点)を調査書の基本点とします。また各学年の比率の数値は1以上の整数とし、その比率の合計は「10」を超えない範囲とします。

【⑤ 面接】

面接の実施方法は「集団面接」又は「個人面接」となります。高校により自己評価資料に学校独自項目を設定する場合があります。学校独自項目を設定していない場合は空欄としています。

【⑥ 特色検査】

各高校の学科・コース等の特色に応じて、実技検査又は作文(小論文)のいずれかを実施し、選抜の資料とします。特色検査を実施しない場合は空欄としています。

【⑦ 選抜資料配点】

学力検査の得点、調査書の得点、面接の得点について、各高校で定めた取り扱いに基づき総合点算出します。特色検査を実施する場合は、特色検査の得点を加えて、総合点を算出します。

- ・学力検査…各教科100点、合計500点を基本点とし、各高校が3教科を超えない範囲で定めた教科について傾斜配点を実施することができます。傾斜配点を実施する教科の配点は1教科ごと150点又は200点とし各高校が設定します。
- ・調査書…各高校は調査書の基本点に135点満点を下回らない範囲で、学科、コース等の特色に応じて定めた数を乗じて調査書の得点とします。
- ・面接…30点満点を基本点とし、30点満点を下回らない範囲で、学科、コース等の特色に応じて定めた数を乗じて、面接の得点とします。
- ・特色検査…特色検査(実技検査又は作文(小論文))を実施する高校は、各高校の定めた基準に従って得点を定めます。Bの例では実技検査を実施します。

※調査書、面接、特色検査の得点の合計の取扱い

- ・特色検査を実施しない場合…学力検査の基本点×1.5≧調査書の得点+面接の得点
- ・特色検査を実施する場合…学力検査の基本点+調査書の得点+面接の得点≧特色検査の得点

【⑧ 第2志望】

「第2志望」や「第2志望に準ずる志望」に関する事柄を記載しています。当該学科がない場合は「なし」としています。

【⑨ その他】

外国人特別選抜による募集に関する事柄を記載しています。記載事項がない場合は「なし」としています。